

若手エンジニアのグローバル化に向けた海外研修 実施報告書

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会

平成 27 年度

技術委員会

目次

1.はじめに	3
2.参加者	4
3.全体スケジュール.....	5
4.壮行会	7
5.研修.....	8
5.プレゼンテーション報告会	12
6.その他.....	18

1.はじめに

近年、マーケットではクラウド、スマートフォン、タブレット、ウェアラブル等の新しいプラットフォームが登場し、国境を越えてアプリケーションが提供される時代となり、グローバルで対応が迫られることが当然の世界が当来しつつあります。これからのエンジニアリングの世界ではグローバルスタンダードへの対応が重要になります。そこではエンジニアに広い視野を持ち、様々なテクノロジーに関する情報収集力や自身で仕事を創り出していく創造性が求められます。そうしたことから、技術委員会では次世代を担うエンジニアにオープンでグローバルな視野を持ち、外向き志向で物おじせず自発的に業務に取り組めるエンジニアへと変化を促す事を狙いとした本研修を企画しました。研修では米国での英語生活を通じて、異文化コミュニケーションや日本以外の異なる働き方を体験することで参加者に得るものが多い構成としました。また、研修後には経営層に向けた英語でのプレゼンテーション報告を行う機会を与えることでより身になるスキルの訓練にも役立ちます。

本企画では自社のみでは海外研修の実現が困難な会員企業においても少数から参加可能になるメリットや、参加者には自社以外に同様の環境で働くエンジニアとの共同生活から得られる発見や人脈作りにも貢献できるよう考えました。本研修では参加者だけでなく企業側にも益が多くあることを祈念しております。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
技術委員会 委員長
田中啓一

2.参加者

1) 研修参加者

8社18名

氏名	所属
永井孝幸	日本事務器株式会社
藤谷洋明	日本事務器株式会社
神谷亜佑美	日本事務器株式会社
田村英明	日本事務器株式会社
渡邊裕太	リコージャパン株式会社
佐藤希絵	リコージャパン株式会社
眞柴直見	株式会社インテリジェントウェイブ
静間隆二	株式会社インテリジェントウェイブ
深谷友紀	株式会社大和コンピューター
與那覇翔	ジェイエムテクノロジー株式会社
古野孝徳	ジェイエムテクノロジー株式会社
岸大輔	株式会社ネクストスケープ
竹内亮汰	株式会社フォーラムエイト
藤村航	株式会社フォーラムエイト
和田浩平	株式会社フォーラムエイト
金子俊輔	株式会社フォーラムエイト
薩摩昌平	株式会社フォーラムエイト
河村誠	株式会社コスモ・コンピューティングシステム

2) 技術委員会：6社6名（五十音順）

委員長：田中 啓一 [日本事務器(株) 代表取締役社長]

副委員長：山本 祥之 [インテリジェント ウェイブ 代表取締役社長]

：小屋 晋吾 [トレンドマイクロ(株) 執行役員 統合政策担当]

：瀧 進太郎 [BB ソフトサービス(株) 代表取締役社長]

委員：下野 文久 [EMC ジャパン(株) エグゼクティブブリーフィングセンター ディレクター]

：富澤 直之 [インテル(株) 法人営業推進本部 技術部長]

3) 研修事業者

－(株)コスモ・コンピューティングシステム

－Cosmo Staff .Inc

3.全体スケジュール

スケジュール			
年	月	日	実施イベント
2015	7	30 (木)	参加者募集開始
	9	15 (火)	参加者募集締切
	10	14 (水)	参加者事前説明会 －パスポート等の取得手続きを参加者自身で実施
		28 (水)	壮行会実施 －参加者間の相互交流を実施
	11	7 (土)	研修開始 －米国ロサンゼルスにて実施
		15 (日)	研修終了 －帰国
26 (水)		参加者レポート MTG －個人レポート作成依頼 －プレゼンテーション報告会でのチームプレゼン打合	
12	25 (水)	個人レポート提出	
2016	1	29 (金)	プレゼンテーション報告会
	3	9 (水)	CSAJ 理事会での実施報告

4. 事前説明会

1) 実施概要

- －日時：平成 27 年 10 月 14 日（水）16:00～17:00
- －場所：CSAJ 会議室

2) 参加者

- －研修参加者：12 名（6 名欠席）
- －研修事業者：(株)コスモ・コンピューティングシステム 3 名
- －前年度参加者：2 名

3) 実施概要

- ・海外研修に関する説明
 - －研修参加の事前に自身で行う渡米手続きや各種準備に関する説明
- ・全体スケジュール
 - －研修終了後にプレゼンテーション報告会を行う等のスケジュール説明
- ・前年度参加者コメント
 - －参加者 2 名による、研修及びプレゼンテーション報告会に関する経験者説明



渡米手続き及び研修説明



前年度参加者による経験談

5. 壮行会

1) 実施概要

- 一日時：平成 26 年 10 月 28 日（水）16:00～18:00
- 場所：CSAJ 会議室

2) 参加者

- 研修参加者 17 名（1 名欠席）
- 技術委員会：委員 1 名
委員長：田中 啓一（日本事務器㈱）
- オブザーバ：3 名
杉本 淳一（CSAJ 理事／㈱コスモ・コンピューティングシステム）
石戸谷 裕英（㈱コスモ・コンピューティングシステム）
小山 忍（㈱コスモ・コンピューティングシステム）
- 事務局：1 名
鈴木啓紹（CSAJ 業務課）

3) 実施概要

- 委員長挨拶：田中委員長（CSAJ 副会長）
- 海外研修に関する説明
- 参加者自己紹介：1 名 1 分（名前、所属、担当業務、性格分析）
- 懇親会
- 中締め



委員長からのご挨拶に始まり、参加者全員の前で各々の自己紹介を行うことで参加各位同志の交流を深め、懇親会では出発前の研修者同士の親睦が深められました。

5. 研修

1) 研修概要

一日時：平成 27 年 11 月 7 日(土)～11 月 15 日(日)7 日間

一場所：ロサンゼルス市内 Torrance Residence Inn

2) 研修実施スケジュール概要

行程	研修項目／場所	内容
11 月 7 日	ロサンゼルス到着 研修施設入 オリエンテーション	自己紹介、日程・宿泊・食事・外出などの説明、 携帯電話貸与、質疑応答など
11 月 8 日 終日研修	英語レッスン	Greeting, Self-introduction, Getting Acquainted
	英語グループレッスン	屋内授業
	英語ハンズオンラーニング Torrance Cultural Arts Center	屋外活動① 各グループに分かれて、講師と屋外に出て課外活動
11 月 9 日 終日研修	英語グループレッスン	屋内授業
	英語ハンズオンラーニング DELAMO FASHION CENTER	屋外活動② 各グループに分かれて、講師と屋外に出て課外活動
	グローバルビジネス	異文化コミュニケーション/グローバルビジネス講義： 元 Unisys 社 Yamaguchi 英語講義含め、外国人エンジニアと仕事するために必要なことや、 グローバルエンジニアになるために必要なものなどを講義
11 月 10 日 終日研修	企業訪問①	訪問先：FUJITUSU GLOVIA INC. 社内見学、現地エンジニアとの技術・意見交換など
	Coworking Space 見学	Next Space
	企業訪問②	訪問先：CITY SOUCED 自治体向けソフトウェア開発企業のプロダクト説明、 意見交換など
11 月 11 日 終日研修	アメリカ先進技術講義 1	AuriQ 社 Colin 氏 BigDATA 解析を専門とする研究者による解析・活用についての技術講義
	アメリカ先進技術講義 2	UI/UX Developer/Jordan 氏 スマートデバイスの UI/UX 設計・開発を専門とする Jordan 氏によるアメリカでの開発手法やフィロソフィー についての講義
	アメリカ先進技術講義 3	InterBusiness Corporation 社 Noguchi 氏 ICT, IoT, IT ビジネス講義 IT 分野における国際ビジネスやコンサルティングの 経験を持つ講師による世界におけるアメリカ、日本の ICT、IoT、IT の現状についての講義
11 月 12 日		自由行動
11 月 13 日 終日研修	UCLA IT 技術講義 NASA JPL	講師：NASA JPL Ono/Takahashi NASA ジェット推進研究所 (Jet Propulsion Laboratory) に勤務するエンジニアによる宇宙探査機の 自動化技術、NASA における IT 技術についての講義
	UCLA キャンパスツアー	UCLA 内見学
	英語ハンズオンラーニング California Science Center, Natural History Museum NASA	屋外活動③ 宇宙についてアメリカにおける航空宇宙産業、歴史など をテーマにグループレッスンを実施
	報告会	成果発表・報告会
11 月 14 日	ロサンゼルス出国	
11 月 15 日		帰国

3) 研修風景



Day2

英語レッスン



Day2

英語グループレッスン



Day2

英語グループレッスン



Day2

英語ハンズオンラーニング
Del Amo Fashion Center



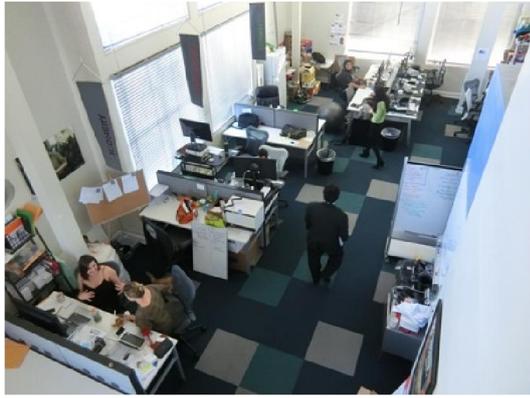
Day2

異文化コミュニケーション/
グローバルビジネス講義
元 Unisys 社 Yamaguchi



Day3

企業訪問
FUJITSU GLOVIA, INC.



Day3 Coworking Space 見学



Day3 企業訪問
CITY SOUCED



Day4 Big DATA 解析
AuriQ 社



Day4 UI/UX Developer/Jordan



Day4 ICT, IoT, IT ビジネス講義
InterBusiness Corporation 社 Noguchi





Day6
UCLA IT 技術講義
NASA JPL Ono/Takahashi



Day6
California Science Center,
Natural History Museum NASA、



Day6
報告会



Day7
参加者一同

米国ロサンゼルスでの英語生活を経験し、コミュニケーションスキルの座学／実践トレーニングだけでなく米国における IT 最新動向の技術講義等を受講した。また、NASA に勤務する日本人からの技術講義を受ける機会を得るなど様々な体験が行われた。

4) 所感レポート（個人提出）

- ・ 研修終了、帰国後に個人レポートの提出を実施。
- ・ 実施時期：2015年11月26日～2015年12月25日
- ・ 参加者全員（18名分）提出済み。
- ・ 個人レポートの構成及び条件レポート提出内容
 - ※条件：参加者自身の上席者への報告レポートとして提出可能なレベルで記載
 - ※構成：一報告者氏名
 - 一研修スケジュール
 - 一各日の研修内容／研修生活において自身が学んだ事
 - 一研修全体に参加しての所感

5.プレゼンテーション報告会

1) 実施概要

一日時：2016年1月30日（金）15：00～17：30

一場所：トスラブ市ヶ谷会議室

研修時に決まったグループ別の実施チーム（5チーム：@3～4名）を単位にチームプレゼンテーションを実施した。各チームともタイムキーパ/投影資料作成/プレゼンター等の役割分担を行い、研修で学んだ事を、英語を交えたプレゼンテーションでCSAJ技術委員会の委員等の経営層クラス、自社の上司クラス、前年度研修参加者の聴講者を前に発表を行った。

聴講側と発表側の活発な質疑応答が進められ、アンケートによる評価報告がなされた。

2) 進行表

- ・技術委員長挨拶
- ・海外研修企画の概要説明
- ・参加者5チーム（全18名）によるチームプレゼンテーション（1チーム15min）
以下、プレゼンテーション構成
 - －参加者（チーム）紹介
自己紹介の実施。
 - －各日の研修内容/研修生活で学んだ事(英語プレゼン含)
スケジュールに沿った自由説明。英語でのプレゼン箇所は各チーム自由
 - －今後の目標（英語プレゼン）
スライドは日本語、プレゼンは英語で実施。
 - －聴講者との質疑応答（2～3min）
- ・プレゼンテーション順
チームA → チームB → チームC → チームD → チームE

3) 聴講参加者：24名

- ・技術委員会：3名
委員長：田中 啓一 副委員長：山本 祥之、小屋 晋吾
- ・オブザーバ：13名
岡田智義、山田将基、星野洋一、山田貴一、高田寿久、大熊建保、中村憲司、石川則夫、塩飽敏章、小杉靖、杉本淳一、石戸谷裕英、小山忍
- ・前年度研修参加者：6名
中嶋基喜、豊吉隆太、石田州一、戸島拓弥、福田康範、島田悠
- ・事務局：2名
戸島 拓生、鈴木 啓紹



田中委員長挨拶



聴講風景

4) プレゼンター（研修チーム）

◆グループ A

渡邊裕太／リコージャパン株式会社
眞柴直見／株式会社インテリジェントウェイブ
古野孝徳／ジェイエムテクノロジー株式会社



◆グループ B

永井孝幸／日本事務器株式会社
佐藤希絵／リコージャパン株式会社
薩摩昌平／株式会社フォーラムエイト



◆グループ C

神谷亜佑美／日本事務器株式会社
静間隆二／株式会社インテリジェントウェイブ
和田浩平／株式会社フォーラムエイト
金子俊輔／株式会社フォーラムエイト



◆グループ D

田村英明／日本事務器株式会社
深谷友紀／株式会社大和コンピューター
藤村 航／株式会社フォーラムエイト
河村 誠／株式会社コスモ・コンピューティングシステム



◆グループ E

藤谷洋明／日本事務器株式会社
與那覇翔／ジェイエムテクノロジー株式会社
岸 大輔／株式会社ネクストスケープ
竹内亮汰／株式会社フォーラムエイト



5) 懇親会（コミュニティ活動）

プレゼンター、聴講者による懇親会を行い、エンジニア同士の交流だけでなく、経営層クラス・上司クラスとの交流も図られた。



山本委員乾杯



懇親風景 1



懇親風景 2



懇親風景 3



アンケート結果発表



前年度研修参加者挨拶



料理



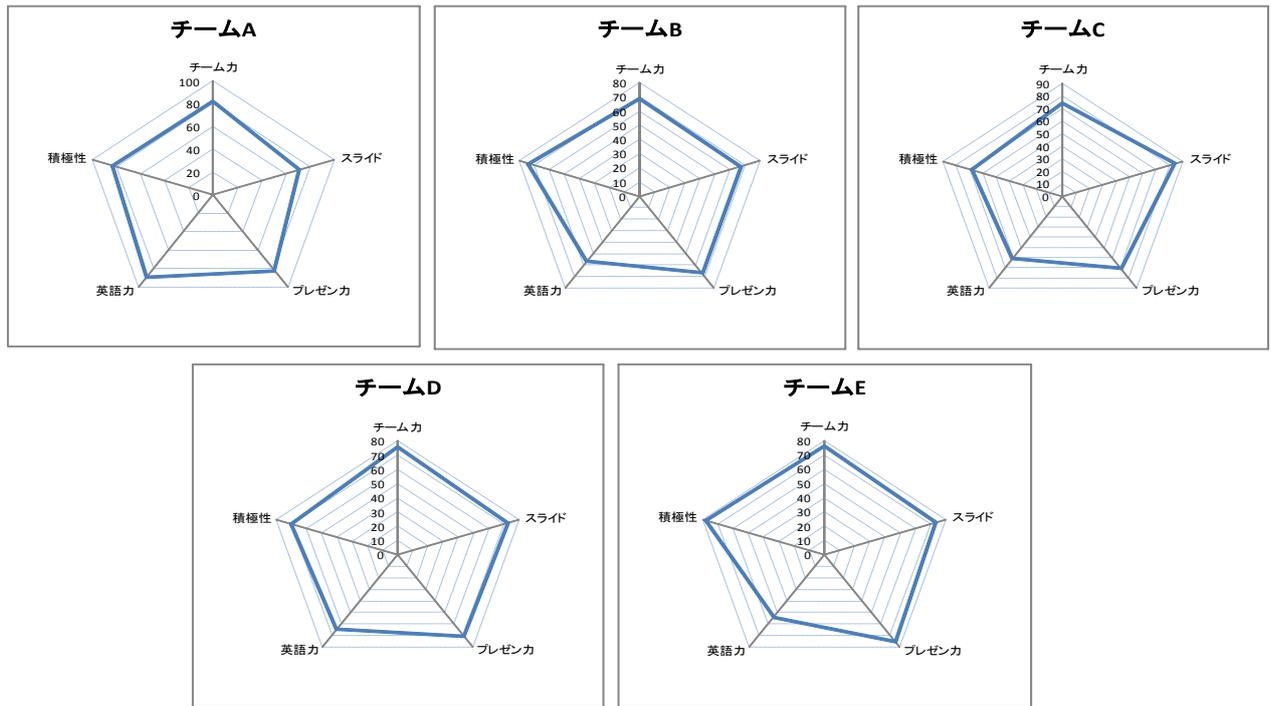
小屋委員中締め

6) アンケート結果

プレゼンテーション報告会において、参加者に以下アンケートを実施した結果となります。

■海外研修参加者プレゼン報告会のアンケート評価_20160129

設問項目	設問1 (最高25点)					設問1合計	設問2				設問2合計
	チームカ	スライド	プレゼンカ	英語力	積極性		とても良い	良い	普通	頑張れ	
チームA	82	71	82	89	83	407	7	13	0	0	20
チームB	69	67	67	57	74	334	2	9	8	0	19
チームC	74	84	71	61	68	358	3	12	6	0	21
チームD	76	73	71	65	70	355	3	11	7	1	22
チームE	76	73	75	54	78	356	3	14	4	0	21



■アンケート個票

1. プレゼンテーションについて、下記の項目から選択して○で囲んでください。

	チーム力 チームの協力関係などの視点	スライド スライドの見易さや伝わりやすさなどの視点	プレゼン力（巧みさ） 説明手法などをみた場合のプレゼンの巧みさ	英語力 プレゼン内での英語表現についての伝わりやすさ	積極性（意気込み） プレゼンに対する意気込み（積極性）
チーム名	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低
チーム○	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

2. 以下の設問の選択肢に☑をいれてください。

総合評価	チーム○	<input type="checkbox"/> とても良い <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 頑張れ			
		感想/指摘			

6.その他

○厚生労働省「キャリア形成促進助成金」の利用

・制度概要

職業訓練などを実施する事業主等に対して訓練経費や訓練中の賃金を助成し、労働者のキャリア形成を効果的に促進。

※ 事業主にあつては、事業内職業能力開発計画・年間職業能力開発計画を作成するとともに、職業能力開発推進者を選任することが必要

※ 事業主団体等にあつては、訓練実施計画を作成することが必要

※ 1 コースあたり 20 時間以上（海外で実施する訓練の場合は 30 時間以上）の訓練が対象

○事業主向け

		助成内容	助成額
② 政策課題対応型訓練	①成長分野等 人材育成コース		健康・環境などの成長分野等での 人材育成のための訓練
	②グローバル 人材育成コース	中小企業 以外 中小企業	海外関連業務に従事する人材育成 のための訓練(海外の大学院、大 学、教育訓練施設などで実施する 訓練を含む)
	③中長期的キャリア 形成コース		中長期的なキャリア形成に資する 教育訓練として厚生労働大臣が指 定する専門実践教育訓練
	④熟練技能 育成・承継コース	中小企業 以下外 【拡充】 中小企業	熟練技能者の指導力強化、技能承 継のための訓練、認定職業訓練
	⑤若年人材育成コース	中小企業	採用後 5 年以内で、35 歳未満の若 年労働者への訓練
	⑥育児中・復職後等 能力アップコース	中小企業 以外 中小企業	育児休業中・復職後・再就職後の 能力アップのための訓練
	⑦認定実習併用 職業訓練コース	中小企業	厚生労働大臣の認定を受けた OJT 付き訓練
	⑧自発的職業能力 開発コース	中小企業	労働者の自発的な能力開発に対す る支援
③一般型訓練	中小企業	政策課題対応型訓練以外の訓練	経費助成：1/2 (1/3) 賃金助成：1h 当た り 800 円(400 円) 経費助成：2/3(1/2) 【助成率拡充】 賃金助成：1h 当た り 800 円(400 円) 経費助成：1/2 賃金助成：1h 当た り 800 円 OJT 実施助成 (⑦):1h 当たり 600 円 賃金助成：1h 当た り 400 円 経費助成：1/3

※育児休業中の訓練（育休中・復職後等能力アップコース）・海外の大学院、大学、教育訓練施設などで実施する訓練（グローバル人材育成コース）に対しては、経費助成のみ行います（賃金助成はありません）。

<支給限度額など>

- ・経費助成の支給限度額は、訓練時間・訓練コースに応じて、1人1コース当たり7~50万円です。
- ・助成対象となる訓練コース数は、1人当たり1年度3コースまでです。
- ・1事業主が1年度に受給できる助成額は、最大で500万円です。
（認定職業訓練、認定実習併用職業訓練、ものづくり人材育成訓練の場合は、1,000万円）
- ・1事業主団体などが1年度に受給できる助成額は500万円です。

・グローバル人材育成コースの解説

海外関連の業務※に従事する労働者を育成するための訓練を実施した場合に助成が受けられる訓練コース。

※海外事業拠点での事業展開、海外への販路開拓、販売網の拡大、輸出、海外の企業との提携・合併などの海外事業を実施するに当たって生じる、① 海外生産・事業拠点における管理業務、② 海外市場調査、③ 提携、販売などの契約業務④ 国際法務など海外事業に関連した業務を指す。

訓練対象者	雇用保険の被保険者
基本要件	<ul style="list-style-type: none"> ●Off-JTにより実施される訓練であること (事業主自ら企画・実施する訓練、または教育訓練機関が実施する訓練) ●実訓練時間が20時間以上であること (海外の大学院、大学、教育訓練施設などで実施する訓練は30時間以上) ●海外関連の業務を行っている(計画を含む)事業主が、労働者に対して実施する海外関連の業務に関連する訓練であること
実施訓練例	<ul style="list-style-type: none"> ●語学力・コミュニケーション能力向上のための講座などの受講 ●リーダーシップ、文化理解などグローバルな行動特性を養成するための講座などの受講 ●国際法務、国際契約、海外マーケティング、地域事情に関する講座などの受講

○利用実績

- ・本研修講座は上記の助成金適用対象として構成し、参加企業による個別対応で申請を行った。
- ・個別対応の申請に際しては個別サポートを実施した。
- ・利用企業：3社